

三和の昔話

三和町には多くの昔話や伝説があり、山内元校長先生が、それを紙芝居にしたものを保存しています。



山内元校長先生作成「三和のむかし話 Map」

紙芝居リスト

1. 御殿山のお姫様
2. 弁慶岩
3. ひらき山の大蛇
4. ベンズル様
5. 八ッ八月の欠けすり鉢
6. かぶとぶち
7. 狐の嫌いな硫黄の匂い
8. 樽ヶ山の弥勒さま
9. 鈴越峠の狐さん
10. お亀さま

これらは、時々地域のお年寄り方や保育園の子たちに、読み聞かせを行っています。



お亀さまの伝説

むかし、むかし、三和の川浦の里にタイコウという和尚さんがおられた。

ある日のこと、和尚さんは、神坂を通過して隣の托鉢に出かけなされた。

(托鉢…修行僧が、鉢をもって町中を歩き。他人の家の前に立って施しのお米や、金銭をうけて回ること)



途中、六本松の峠にさしかかった時、道の真ん中に、人の行き来の邪魔になる黒い石が転がっていた。和尚さんは、人が通るときにつまずいて、怪我でもしてはいけないと思われ、その石を少し離れた邪魔にならないところに移し替えておかれた。

無事に托鉢を終えての帰り、朝ほど通った六本松の峠にさしかかって、和尚さんはびっくり仰天！不思議なことに、来るときに移しておいた黒い石が、まるで呼吸をしている生き物のように、朝のところに戻っているではありませんか！

人っ子一人いない山道のこと、和尚さんは恐る恐る小さな声を震わせて、

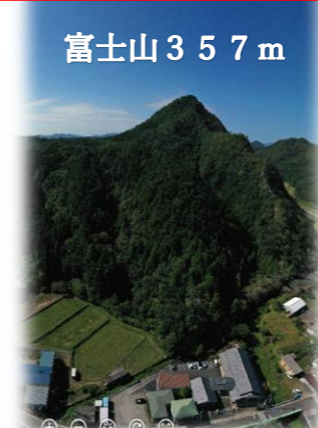
「生あるものなら動いてみよ、生き物なら動いてみよ。」と、石に向かって語りかけられた。すると、あら不思議！その石はあたかも返事をするように、3回ほど回って、止まったそう。

和尚さんは、この石を神仏様のお告げの石ではないかと思い、大事に持ち帰って観音堂に祀り、朝夕お参りをされたとな。

この石に似た石に願いことをかけてお参りすると、どんな願いことでも叶えられ、患っているところを、この石でさすると、必ず病気が治るというので、たいそう評判となり、誰言うことなく「お亀さま」という名がついたそう。お供え物をしたり、「お亀さまが寒かろう。」と敷物を敷いたりして、大事にお参りされるようになったそう。

これまたある時、この評判高い「おかめさま」を盗み出して、一儲けしようと考えた不届きものがおってな。盗んで逃げたが、一晩中、同じところをぐるぐると回っていただけやったとき。

今、この「お亀さま」は、三和小学校の東側の山の斜面にある「おかめあん」というお堂に祀られています！



2019.10.10 ドローン撮影